別紙様式３（修士申請者用）

（西暦）2022 年度　博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること）

幼児期前期の母子間の相互的なふれあい遊びがアタッチメントに及ぼす影響の探索的研究

学位の種類：　修士（　作業療法学　）
東京都立大学大学院
人間健康科学研究科　博士前期課程 人間健康科学専攻　作業療法科学域
学修番号：21896707
氏　名：畠山　久司
（指導教員名：　伊藤　祐子　）

注：1 ページあたり 1,000 字程度（英語の場合 300 ワード程度）で、本様式 1～2 ページ（A4 版）程度とする。

幼少期の親子間の安定したアタッチメントは，子どもが生涯に渡って心と身体を健康に保ち，幸福に生きる上で最も根源的な働きをなす．特に，養育行動の不安定性が増す 2 歳代において，安定したアタッチメントの形成は重要である．母子間のアタッチメント形成や母親の良好な養育行動には，母子間の相互的なふれあい遊びが寄与している可能性があるが，ふれあい遊びの重要性は明らかになっていない．よって，本研究の目的は，幼児期前期の母子間の相互的なふれあい遊びが，アタッチメントおよび養育行動に及ぼす影響を探索的に調査することである．

対象は，2 歳 0 ヶ月～2 歳 11 ヶ月の発達に問題が認められない子どもとその母親の 36 組であった．アタッチメント評価はアタッチメント安定性尺度母親用を用い，養育行動評価は肯定的・否定的育児行動尺度トドラー版を使用した．母子間の自由な遊び場面を 10 分間撮影し，ふれあい遊びが多かった連続した 5 分間を抽出した．ふれあい遊びを始まりと終わりで区切り，その間を 1 回のふれあい遊びと定義し，1 回のふれあい遊び毎を分析対象とした．ふれあい遊びの評価項目は，子どもの身体接触の合計時間とふれあい遊びの実施回数という量的な項目と，母親と子どもの間に相互に働く情緒交流システムに着目した母子間の相互作用に関する項目（子ども側面 2 項目，母親側面 3 項目）を調査した．その後，アタッチメント評価および養育行動評価とふれあい遊びの評価の関連性を，二項ロジスティック回帰分析を用いて検討した．

その結果，アタッチメントの安定性に関連するふれあい遊びの評価項目において，量的な項目は関与しなかった．一方で，ふれあい遊び前に母親が子どもの意思を尊重できる，ふれあい遊び中の子どもの適度な情動表出，ふれあい遊び後の母親の情動応答性，という母子間の相互作用に関する評価項目との関連が示された．よって，この一連の流れを伴った母子間の相互的なふれあい遊びがアタッチメントの形成に寄与することが示唆された．また，短時間であっても母子間で相互的にふれあい遊びを行うことの重要性が明らかになり，特に母子保健分野で有益な情報になり得ると考える．また，ふれあい遊び前に母親が子どもの意思を尊重することの難しさは，アタッチメントの不安定性と否定的養育行動と関連した．そのため，アタッチメントの不安定性と否定的養育行動は構成される概念が類似している可能性が考えられた．今後，ふれあい遊びを用いた介入プログラムの開発に向けた，さらなる研究の発展が望まれる．